

所 属・職 位	医学部医学科放射線医学講座・教授	
氏 名	浅山 良樹 (Asayama Yoshiki)	
取 得 学 位	博士 (医学)、九州大学、2002年3月	
SDGs 目標	3 すべての人に健康と福祉を  4 質の高い教育をみんなに 	

研 究 分 野	放射線医学
研究キーワード	画像診断、低侵襲治療
研 究 内 容	①病理学的情報に基づいた画像解析 - 肝細胞癌の脱分化過程におけるvascularityの変化を病理学的、画像的に解析した。腫瘍のvascularityは高分化から中分化までは増殖活性と正比例していたが、中分化から低分化にかけては反比例していた。低分化では嫌気性代謝が中心になっていると考えられた (論文1)。 ②イメージングバイオマーカーとしての放射線画像の役割探求 - 腫瘍形成型肝内胆管癌の予後と造影CT遅延相の増強の程度との関連を検証した。造影遅延相の所見で病変の3分の2以上が高吸収となる群はscirrhou s typeに一致し、多変量解析では同群は独立した予後不良因子であった (論文2)。肝外胆管癌でも同様の結果であった (論文3)。 ③新しい画像診断法の開発と臨床応用 - MRIの新しい分子イメージングの一つであるAPTイメージングで子宮体癌のグレードを予測可能であることを報告した (文献4)。 ④新しい低侵襲治療法の手技の導入と工夫 - 肝細胞癌に対する球状塞栓物質 (ビーズ) を用いた経動脈的化学塞栓療法 (DEB-TACE) の治療効果予測因子を解析した。治療効果不良となる因子は小さな腫瘍サイズ (2cm未満) および病変の局在 (segment 4/1) であった。適切な症例選択の重要性が示唆された (文献5)。 - 腎癌凍結療法の術後腎機能予測モデルを開発し、慢性腎障害ステージの増悪の予測正診率は72%であり本システムは腎機能低下の予測に有用であることが示された (文献6)。
研 究 業 績・アピールポイント	これまで放射線画像解析や画像バイオマーカーの創出に取り組みその成果を報告してきた。また凍結療法など新たな低侵襲治療法を積極的に導入し、その効果や合併症を報告した。 論文 2008年、Arterial blood supply of hepatocellular carcinoma and histologic grading: radiologic-pathologic correlation. AJR Am J Roentgenol. 2006年、Delayed-phase dynamic CT enhancement as a prognostic factor for mass-forming intrahepatic cholangiocarcinoma. Radiology. 2017年、Prognostic significance of contrast-enhanced CT attenuation value in extrahepatic cholangiocarcinoma. Eur Radiol. 2018年、Proton Transfer MR Imaging of Endometrioid Endometrial Adenocarcinoma: Association with Histologic Grade. Radiology. 2017年、Predictors of therapeutic effect of transarterial chemoembolization using drug-eluting beads for hepatocellular carcinoma. Clin Radiol. 2019年、Usefulness of a Pretreatment CT-Based Modified RENAL Nephrometry Score in Predicting Renal Function After Cryotherapy for T1a Renal Mass. Cardiovasc Intervent Radiol.